

令和 6 年度 北海道拓北養護学校 学校評価及び次年度に向けて

1 令和 6 年度学校評価アンケート結果

(1) 令和 6 年度学校評価「保護者評価結果」

・ 回答数（回答率） 合計：52名（43%）		
内訳 小学部：26名（43%） 中学部：16名（44%） 高等部：10名（38%）		
No.	保護者評価項目	評価点合計の平均点 (昨年との比較)
1	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・実施・評価にかかわり、担任あるいは学校から十分な説明を得ることができていますか。	3.9(+0.1)
2	学校は、学校便り（広報誌）、学年便り、校内掲示、ホームページやSNS、メール配信などで学校からの情報を十分に伝えることができていますか。	3.7(-0.1)
3	教職員は、お子さんに対し、人格に配慮した丁寧な対応や言語環境で接していますか。	3.8(±0)
4	教職員と保護者は、お互いを尊重し合い、協力し合うことができていますか。	3.8(±0)
5	各計画は、お子さんの学習ニーズに応じた目標設定になっていると思いますか。	3.8(+0.1)
6	学習では、お子さんの状況に応じた教材・教具、補助具、支援等の工夫がされていますか。	3.7(±0)
7	学習内容は、現在の生活や将来の自立につながる内容になっていると思いますか。	3.6(+0.3)
8	学校生活は、お子さんの状況を踏まえた健康安全指導（給食・摂食、医療的ケア含む）がされていますか。	3.7(±0)
9	学校は、防災、防犯について、危機管理意識をもち、災害発生時に対する備えを進めていますか。	3.5(+0.1)
10	学校は、事故やヒヤリハット、いじめ等の安全面の対応と再発防止への取り組みがなされていますか。	3.3(-0.1)
11	学校では、学校行事や寄宿舎行事の時期や内容は、適切に行われていると思いますか。	3.5(±0)
12	進路指導では、早期から保護者や関係機関と連携し、計画的な指導・支援がなされていますか。	3.5(+0.1)
13	本校のPTA活動は、参加しやすい内容・方法になっていますか。	3.4(±0)

・ 回収率が 43% でした。（前年度：60%）

・ 下記の項目で数件、「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」という評価をいただいています。

No.	「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」という評価があった項目
3	教職員は、お子さんに対し、人格に配慮した丁寧な対応や言語環境で接していますか。 （「1 できていない 改善が必要」：1件）
8	学校生活は、お子さんの状況を踏まえた健康安全指導（給食・摂食、医療的ケア含む）がされていますか。 （「2 あまりできていない」：1件、「1 できていない 改善が必要」：1件）
9	学校は、防災、防犯について、危機管理意識をもち、災害発生時に対する備えを進めていますか。 （「2 あまりできていない」：1件）
10	学校は、事故やヒヤリハット、いじめ等の安全面の対応と再発防止への取り組みがなされていますか。 （「2 あまりできていない」：2件、「1 できていない 改善が必要」：1件）
11	学校では、学校行事や寄宿舎行事の時期や内容は、適切に行われていると思いますか。 （「2 あまりできていない」：1件、「1 できていない 改善が必要」：1件）
13	本校のPTA活動は、参加しやすい内容・方法になっていますか。 （「2 あまりできていない」：2件）

・ 自由記述欄に、「学校行事について、真駒内養護学校等他校は、コロナが5類感染症になる前から、感染対策などに気をつけ、工夫しながら運動会等を開催したり、参観日の回数を通常に戻して行っているようですが、拓北養護学校は今後も（対策や工夫しながらでも）通常に戻す予定はないのでしょうか？」という御意見をいただきました。

(2) 令和6年度学校評価「職員評価結果」

小学部:44名、中学部:25名、高等部25名、寄宿舎12名、行政9名 合計:115名 115名/118名 回収率 97.4%		
		115名の評価点合計 の平均点
1 「未来を拓く」 ◇教育課程の “ブラッシュアップ”を 目指す	(1)人権意識(対児童生徒、対教職員)の向上を図り、信頼される学校経営が推進できた。	3
	(2)児童生徒一人一人の教育ニーズに応じた「個別的教育 支援計画」「個別の指導計画」を 基本とした根拠ある教育実践ができた	3.01
	(3)ー①医療的ケア実施体制の充実ができた。	2.99
	(3)ー②摂食指導に係る専門性を高めることができた。	2.97
	(3)ー③児童生徒の実態に応じた段階食の検討・推進ができた。	●2.63
	(4)安全で安心な教育環境、危機管理体制の点検と整備ができた。	2.94
	(5)ー①将来をより良く生きるために必要な知識、意欲や態度を育成できた。	2.99
	(5)ー②発達段階、年齢に即した進路支援や進路学習の実施ができた。	2.91
	(6)諸会義や業務内容の確認と精選ができた。	2.79
	1 「未来を拓く」の平均	2.95
2 「学校を開く」 ◇防災教育の充実と ICT活用の “スキルアップ”を 目指す。	(7)PTAや地域と連携した学校づくりができた。	2.81
	(8)ー①地域の特色を生かした体験学習や地域資源(社会教育施設など)を利用した教育活動が できた。	●2.71
	(8)ー②家庭・地域と連携した防災体制強化に向けて危機管理体制の点検と整備ができた。	●2.74
	(9)ー①卒業後の生涯学習や、共生を見据えた交流及び共同学習ができた。	●2.71
	(9)ー②関係機関と連携した実習等の充実ができた。	2.82
	(10)校内相互理解を深め、関係機関と連携した特別支援教育のセンター的機能が発揮できた。	●2.73
	(11)学校便りや学年通信、HPやSNS等を活用した情報発信ができた。	○3.4
	(12)ICT機器を効果的に活用した指導実践ができた。	○3.23
	2 「学校を開く」の平均	2.815
3 「自己を啓く」 ◇組織と個々の “キャリアアップ”を 目指す	(13)肢体不自由教育や重度重複教育などの専門性を高めることができた。	2.97
	(14)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による各指導計画の立案や授業実践、評価・ 改善ができた。	2.83
	(15)自立活動の指導の工夫と充実ができた。	3
	(16)教育公務員としての役割と使命を自覚し、不祥事の防止、服務規律の保持ができた。	○3.59
	(17)業務推進に必要な情報(例:前年度の取り組み内容、反省内容など)が得られ、校務の効率 化、ICT化が図られた	2.97
	3 「自己を啓く」の平均	2.9425

・平均評価が3.2以上のものに○、2.75以下のものに●をつけています。

(11)学校便りや学年通信、HPやSNS等を活用した情報発信ができた。	○3.4
(12)ICT機器を効果的に活用した指導実践ができた。	○3.23
(16)教育公務員としての役割と使命を自覚し、不祥事の防止、服務規律の保持ができた。	○3.59
(3)ー③児童生徒の実態に応じた段階食の検討・推進ができた。	●2.63
(8)ー①地域の特色を生かした体験学習や地域資源(社会教育施設など)を利用した教育活動ができた。	●2.71
(8)ー②家庭・地域と連携した防災体制強化に向けて危機管理体制の点検と整備ができた。	●2.74
(9)ー①卒業後の生涯学習や、共生を見据えた交流及び共同学習ができた。	●2.71
(10)校内相互理解を深め、関係機関と連携した特別支援教育のセンター的機能が発揮できた。	●2.73

2 各評価まとめ

(1)保護者評価より

- ①回収率が43%と昨年より低い結果となった。この点は次年度に対策を講じ、より多くの方々から御意見をいただけるよう対応する。
- ②平均評価は3.3～3.9と高い評価であるが、平均が低かった項目が「10. 学校は、事故やヒヤリハット、いじめ等の安全面の対応と再発防止への取り組みがなされていますか。」である。この点について、安全面の対策を講じる。
- ③「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」の評価をいただいた項目について改善が必要である。
- ④自由記述欄にいただいた御意見について、本校でも感染症対策を講じながら各行事等再開している部分もあるが、御指摘のあった参観日など、未だコロナ以前と同様に戻していない部分もある。

(2)教職員評価より

- ①児童生徒の実態に応じた段階食の検討・推進
- ②地域の特色を生かした体験学習や地域資源(社会教育施設など)を利用した教育活動の実施
- ③卒業後の生涯学習や、共生を見据えた交流及び共同学習の推進
- ④校内相互理解を深め、関係機関と連携した特別支援教育のセンター的機能の発揮
- ⑤家庭・地域と連携した防災体制強化に向けて危機管理体制の点検と整備

(3)学校運営協議会より (第2回学校運営協議会 12月4日 10:00～ 本校会議室)

- ①防災の取り組みについて、拓北養護学校の取り組みを参考に、福祉施設でも取り組んでみたいと思った。避難訓練の様子を見学したい。
- ②学校間交流や、交流先の児童生徒の保護者にも、本校児童生徒のことを知ってほしい。
- ③教育大の学生にとっては拓北養護での経験は貴重なので、ボランティアなどで学生が学校に来る機会を設けてほしい。
- ④地域の方々や学生とのスポーツ大会やアート活動など交流の場を設けてはどうか。
- ⑤学校での取り組みを、堅苦しくない形で発信してほしい。良い取り組みを行っていても発信されていないのもったいない。
- ⑥校内研修や外部専門機関と連携などを行い、より教職員の専門性を向上してほしい。

3 次年度に向けての取り組み

【各評価等の総括】

- (1) 三者共通して、“人とのかかわりの広がり”、“様々な体験の拡大”、“開かれた学校（情報の発信等）”という点が共通してあげられた。
- (2) 防災に関する意識や、取り組みの必要性について共通の意見が出された。
- (3) 肢体不自由児教育に必要な専門性（摂食指導、身体へのアプローチ、他）について、より高度な対応が必要との意見が教職員から出され、保護者からも安心安全な学校生活を望む意見が出た。

令和6年度学校評価より	次年度に向けて
(1) “人とのかかわりの広がり” “様々な体験の拡大” “開かれた学校（情報の発信等）” 【保護者評価】 ①③④ 【教職員評価】 ②③④ 【運営協議会】 ②③④⑤	(ア) 地域連携プランを通し、地域の方々や福祉事業所の方々とのかかわりを増やし、地域に根差した教育を行うように取り組む。 (イ) 参観日や学校公開の回数を見直し、保護者や地域の方々に学校の取り組みや活動内容を知っていただく機会を増やす。 (ウ) 行事の充実や地域ボランティアの方々とのかかわりなど、児童生徒の体験的活動の充実を図る。
(2) 防災に関する取り組み 【保護者評価】 ③ 【教職員評価】 ⑤ 【運営協議会】 ①	(エ) 新たに「防災部（仮称）」を設置し、防災対策、防災教育への取り組みの充実を図る。また、防災体制の構築に向けて、保護者や地域の方々と連携して取り組むよう努める。
(3) 児童生徒にとっての安心安全な学校生活に必要な専門性の向上 【保護者評価】 ②③ 【教職員評価】 ① 【運営協議会】 ⑥	(オ) 教職員の研修時間を増やし、摂食指導や医療的ケアを始めとする肢体不自由児教育の専門性を向上させ、児童生徒がより安心・安全に過ごすことができるように努める。また、それらの内容について、保護者の皆様に発信するように努める。（例：保護者向け給食試食会の実施） (カ) 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を活用し、児童生徒の教育の充実を図るために、学校と家庭、各関係機関の連携の強化に向けた具体策について、次年度に向けて検討していく。